ねんきんだより Pensions News

口座振替がお得　国民年金保険料

口座振替を利用すると、金融機関等に行く手間と時間が省けます。

２年前納（口座振替）のメリット

○２年間で１万６千円程度の割引となります。
○２年前納分の全額がその年の社会保険料控除の対象となります。
○口座振替をご利用することにより、納め忘れを防ぐことができます。
※２年前納は口座振替・現金・クレジットカード納付が可能です。納付方法により割引額が変わります。
また、口座振替には当月分保険料を当月末に振替納付することにより、月々５０円割引される早割制度や、現金納付よりも割引額が多い６か月前納、１年前納もあり大変お得です。
申し込み期限は毎年２月末までです。

問合せ
○年金加入者ダイヤル
☎０５７０－００３－００４

問合せ　太田年金事務所 ☎４９－３７１６

電熱ウエアの異常発熱に注意

【事例１】
テレビ広告を見て電熱ヒーター内蔵ブルゾンを購入した。パジャマの上に着用したところパジャマが焦げてしまった。
（８０歳代 男性）

【事例２】
ヒーター内蔵型ベストを購入した。着用時、首のあたりが熱いと感じベストの襟を触ったところ、指をやけどし水膨れになった。ベストは４回着用しただけで、襟部が溶けて穴が開いてしまった。
（６０歳代　女性）

【ひとこと助言】
電熱ウェアは、衣服の内部に電線や電熱線を配置した電気製品です。電線や電熱線の損傷によって線同士が不安定に接触した状態で使うと、衣服が焦げたり、やけどを負う可能性があります。強く擦る、折り曲げるなど、電熱ウェアの電線などに負荷をかけないよう丁寧に扱いましょう。
使用中に異常な発熱、異臭、変形が見られたり、動作しなくなった場合には直ちに使用を中止しましょう。製造元や販売元のほか、型式、機能といった仕様が明示された商品を購入し、取扱説明書や本体の注意表示をよく読み、理解してから使用しましょう。

相談は消費生活センターまで　☎８２－７８３０（ナヤミナシ）

休日当番医

期日	内科系			外科系	耳鼻科
２月４日（日）	いたくら内科クリニック ７０－４０８０	小児科おぎわらクリニック※ ６１－１１３３		館林医院 ７４－２１１２	川村耳鼻咽喉科医院 ７２－１３３７
２月11日（祝）	加藤医院 ８９－１０３１	明和赤ちゃんこどもクリニック※ ８４－１１６６		明和セントラル病院 ８４－１２３４	－
２月12日（振休）	たなか医院 ６２－２８８１	須田内科医院 ６３－１４１４	阿部医院 ６２－５４２８	堀井乳腺外科クリニック ５５－２１００	－
２月18日（日）	おうら病院 ８８－５６７８	星野こどもクリニック※ ７０－７２００		富士クリニック ペインクリニック ２０－１９７１	板倉耳鼻咽喉科クリニック ８０－４３３３
２月23日（祝）	蜂谷病院 ６３－０８８８	はまだクリニック ８０－１１００	横田医院 ７２－０２５５	しんじょう整形外科クリニック ５５－３６２３	－
２月25日（日）	後藤内科医院 ７２－０１３４	多々良診療所 ７２－３０６０		慶友整形外科病院 ４９－９０００	－
３月３日（日）	福田ペインクリニック ８４－１２３３	長谷川クリニック ８０－３３１１		ふじの木整形・内科クリニック ９１－４０７０	川田耳鼻咽喉科医院 ７２－３３１４
３月10日（日）	ましも内科・胃腸科 ６２－２０２５	神尾内科医院 ７５－１２８８		館林市夜間急病診療所 ７３－２３１３	－

歯科
館林邑楽歯科保健医療センター
７３－８８１８
午前９時～正午

◆緊急　公立館林厚生病院（内科系・外科系）　☎７２－３１４０
◆コロナに関すること　館林保健福祉事務所 ☎７２－３２３０（平日午前８時30分～午後５時15分）
群馬県新型コロナウイルス感染症受診相談センター　☎０５７０－０７０－５６７（館林保健福祉事務所の受付時間外）
◆夜間　館林市夜間急病診療所（内科・小児科）午後７時～10時（日・祝、年末年始除く）
☎７３－２３１３（要受診前電話連絡）

●診療時間は、午前９時～午後５時（ただし、耳鼻科の診療時間は、午前９時～午後１時）　●内科系の※は、小児科のみとなります。
●受診前に必ず医療機関に電話で確認してください。　●救急テレホンサービス　☎７３－５６９９：受診可能な病院を紹介しています。
●感染症の流行状況により、電話がつながりにくい場合や診察に時間を要する場合があります。あらかじめご了承ください。
●公立館林厚生病院の予約時間は、午前８時30分～11時、午後１時30分～２時30分です。（要電話予約）

全身全霊で打ち込む和太鼓

和太鼓の楽しさを次の世代にも伝えていきたい

鈴木加奈さん

すずき　かな　　37歳

大字板倉在住

休日には、家族でアウトドアやものづくりを楽しんでいます。特に「上毛かるたの旅」と称して、かるたゆかりの地を訪ねる旅行にも行っているそうです。

レポーター
広報編集委員
木村浩征（きむらひろゆき）

和太鼓との出会い

12年前に板倉町に引っ越してきたという鈴木さんと和太鼓との出会いは、長女がおばあちゃんと散歩していた時に聞こえてきた太鼓の音がきっかけだったそうです。

「見てみたい」から、すぐに和太鼓を習い始め、必然的にお母さんも見に行くようになりました。そこで、指導しているかたから、たたいてみないかと誘われると、なんと、よい感じにたたけてしまったそうです。

疲れよりも爽快感

所属しているのは「板倉はやし連」で、和太鼓メンバーは６人、鈴木さんの２人の娘さんも一緒に活動しています。

年間約20ステージを行うそうですが、老人施設などの慰問では、迫力ある太鼓の音に、思わず「おおー」という喜びの声が上がるとのことでした。その笑顔を見せてもらうことで、自分自身もうれしくなり、たたき終わったときの疲れよりも爽快感が上回るそうです。

次世代につなげていきたい

軽い気持ちで始めたはずでしたが、今ではすっかり夢中になり、和太鼓の楽しさを次の世代にもつなげて行けたらいいなと思っているということです。

そんな鈴木さんの演奏を、昨年12月に行われたイルミネーション点灯式で見ることができましたが、その迫力に圧倒されてしまいました。

まさに全身全霊で太鼓に打ち込んでいる思いが伝わってくる演奏で、一瞬寒さを忘れるくらいでした。

明るく元気で、何事にも前向きで、何でも気になるとやってみないと気が済まなくなるタイプ。板倉町に来てよかったと、笑顔を見せてくれました。きっと、これからの町に活気を与えてくれる存在になると思いました。